

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2022年6月23日
【事業年度】	第57期(自2021年4月1日至2022年3月31日)
【会社名】	遠州トラック株式会社
【英訳名】	ENSHU TRUCK CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澤田 邦彦
【本店の所在の場所】	静岡県袋井市木原627番地の3
【電話番号】	0538(42)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 松尾 孝之
【最寄りの連絡場所】	静岡県袋井市木原627番地の3
【電話番号】	0538(42)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 松尾 孝之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
営業収益 (百万円)	25,226	28,414	34,001	39,540	42,751
経常利益 (百万円)	1,388	1,568	2,335	3,184	3,299
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,168	990	1,587	2,261	2,342
包括利益 (百万円)	1,252	957	1,536	2,360	2,294
純資産額 (百万円)	12,909	13,687	14,970	16,921	18,607
総資産額 (百万円)	23,861	25,072	27,305	29,783	31,591
1株当たり純資産額 (円)	1,730.25	1,834.60	2,006.61	2,268.02	2,493.77
1株当たり当期純利益 (円)	156.65	132.71	212.84	303.10	313.95
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.1	54.6	54.8	56.8	58.9
自己資本利益率 (%)	9.5	7.4	11.1	14.2	13.2
株価収益率 (倍)	9.2	8.7	11.1	9.6	7.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,654	2,241	2,084	3,328	1,672
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	111	916	1,632	444	1,277
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	883	518	205	1,285	669
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	2,020	2,826	3,484	5,082	4,808
従業員数 (人)	873	970	1,040	1,198	1,270
(外、平均臨時雇用者数)	(234)	(237)	(264)	(342)	(419)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
営業収益 (百万円)	22,223	25,283	30,547	35,663	37,775
経常利益 (百万円)	1,204	1,361	2,008	2,732	2,811
当期純利益 (百万円)	1,047	854	1,376	1,879	2,014
資本金 (百万円)	1,284	1,284	1,284	1,284	1,284
発行済株式総数 (株)	7,546,000	7,546,000	7,546,000	7,546,000	7,546,000
純資産額 (百万円)	11,582	12,242	13,317	14,879	16,245
総資産額 (百万円)	22,205	23,182	25,104	26,900	28,475
1株当たり純資産額 (円)	1,552.48	1,640.85	1,784.95	1,994.36	2,177.24
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	20.00 (10.00)	28.00 (14.00)	45.00 (20.00)	70.00 (30.00)	80.00 (40.00)
1株当たり当期純利益 (円)	140.46	114.57	184.44	251.90	269.97
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.2	52.8	53.0	55.3	57.1
自己資本利益率 (%)	9.5	7.2	10.8	13.3	12.9
株価収益率 (倍)	10.2	10.1	12.8	11.6	8.6
配当性向 (%)	14.2	24.4	24.4	27.8	29.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	738 (204)	818 (216)	874 (245)	916 (291)	990 (360)
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	117.3 (115.9)	97.2 (110.0)	198.1 (99.6)	248.4 (141.5)	206.1 (144.3)
最高株価 (円)	1,911	1,736	2,989	4,090	2,926
最低株価 (円)	1,063	851	1,080	2,104	2,100

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

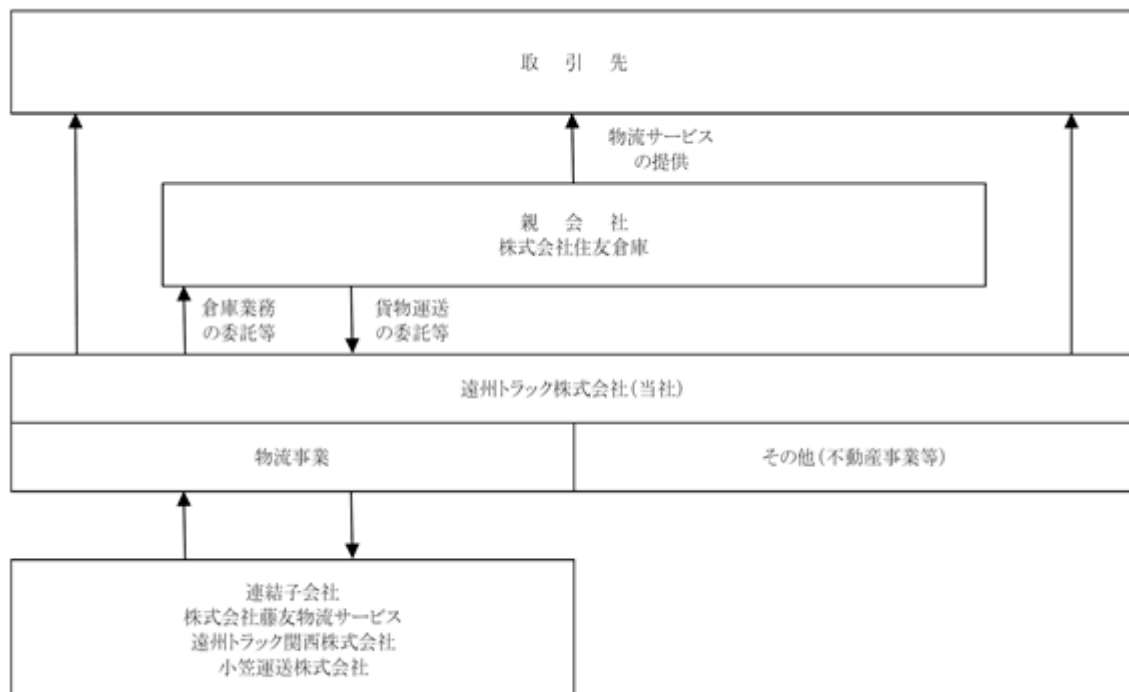
- 1965年 8月 静岡県袋井市に遠州トラック株式会社を設立、貨物自動車運送事業を開始
- 1971年 1月 静岡県袋井市に豊田不動産株式会社を設立
- 1979年 5月 倉庫業認可取得、倉庫事業を開始
- 1981年11月 静岡県袋井市に産業廃棄物処理業の株式会社タウンサービスを設立
- 1982年 2月 静岡県袋井市（現在は浜松市東区）に運送・倉庫及び物流加工業の株式会社藤友物流サービス（現連結子会社）を設立
- 1982年 4月 静岡県西部地域での業務拡充のため浜松西事業所（後に遠州トラック浜松株式会社。現 浜松営業所）を開設
- 1982年 4月 関東地域での業務拡充のため春日部事業所（後に遠州トラック関東株式会社。現 春日部営業所）を開設
- 1982年 9月 自動車運送取扱事業登録、運送取扱業務を開始
- 1988年 6月 静岡県浜松市に車輛整備業の浜松整備株式会社を設立
- 1989年 3月 静岡県浜松市に遠州トラック浜松株式会社を設立
- 1989年 3月 埼玉県春日部市に遠州トラック関東株式会社を設立
- 1992年 4月 子会社5社（豊田不動産株式会社、株式会社タウンサービス、浜松整備株式会社、遠州トラック浜松株式会社、遠州トラック関東株式会社）を吸収合併
- 1992年 4月 静岡県袋井市に不動産営業所を開設、不動産事業を開始
- 1994年 2月 中国上海市に上海遠州出口商品整理服務有限公司を設立
- 1994年10月 東京都中央区（現在は東京都港区）に東京事務所（現 東京営業所）を開設
- 1995年 4月 日本証券業協会に店頭売買有価証券として登録
- 1995年 4月 上海遠州出口商品整理服務有限公司を解散し、上海遠州物流有限公司を設立（2015年11月清算）
- 1997年 5月 中国青島市に青島遠州国際物流有限公司を設立（2017年 1月清算）
- 1997年 9月 神奈川県横浜市に横浜事業所（現 横浜営業所）を開設
- 2000年11月 子会社・株式会社藤友物流サービスの追加出資により中国北京市の北京外紅国際物流有限公司を子会社化（2008年11月、出資持分を譲渡し、関係解消）
- 2001年 1月 本社倉庫部が「IS09002」の認証を取得
- 2001年 1月 中国大連市に大連遠州貨運有限公司を設立（2016年 3月清算）
- 2002年 8月 関西地区における営業拡大のため大阪市鶴見区（現在は大阪府摂津市）の遠州トラック関西株式会社の株式100%を取得（現 連結子会社）
- 2003年 2月 本社輸送部、倉庫部及び浜松事業部（現 浜松営業所）が「IS09001」の認証を取得
- 2004年11月 静岡県袋井市に物流加工業の株式会社中国遠州コーポレーションを設立（2017年 8月清算）
- 2004年12月 日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
- 2005年 4月 当社1単元株式数を1,000株から100株に変更
- 2006年 9月 株式会社住友倉庫が株式の公開買付けにより当社株式4,527,600株（発行済株式の総数の60.0%）を取得し、当社の親会社となる
- 2007年 4月 中国青島市に青島佳天美遠州貿易有限公司を設立（2016年11月、出資持分を譲渡し、関係解消）
- 2008年 4月 子会社・株式会社中国遠州コーポレーションの出資により中国北京市に北京遠州包装服務有限公司を設立（2012年 3月、出資持分を譲渡し、関係解消）
- 2009年 6月 福島県白河市に福島事務所を開設（2020年 3月閉鎖）
- 2009年11月 神奈川県厚木市に厚木要冷センターを開設
- 2010年 4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
- 2012年 6月 トランクルーム（書類等保管）事業に参入
- 2013年 7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
- 2014年12月 太陽光発電による売電事業に参入
- 2017年 4月 神奈川県足柄上郡に小田原営業所を開設
- 2018年 7月 インターネット通販の宅配業務に参入
- 2018年11月 静岡県浜松市北区に、中日本高速道路株式会社と共同で、中継物流拠点「コネクティア浜松」を開設
- 2020年10月 静岡県菊川市に本社がある小笠運送株式会社（現 連結子会社）の全株式を取得し子会社化
- 2022年 4月 東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のJASDAQ（スタンダード）からスタンダード市場に移行

3【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(遠州トラック株式会社)及び子会社3社並びに親会社である株式会社住友倉庫により構成されており、一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫事業及び不動産事業等による総合物流事業を営んでおります。事業内容とセグメントとの区分は同一であり、当社及び関係会社の当該事業にかかる位置付けは次のとおりであります。

区分		内容	会社名	
物流事業	一般貨物自動車運送事業	貨物運送	遠州トラック株式会社 遠州トラック関西株式会社	株式会社藤友物流サービス 小笠運送株式会社
	貨物運送取扱事業	貨物運送の取次		
	倉庫事業	荷物の保管・管理		
		物流加工		
その他	不動産事業等	土地建物の賃貸・売買等 太陽光発電による売電	遠州トラック株式会社	

以上の当社グループについて図示すると次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(親会社) 株式会社住友倉庫 (注)2	大阪市北区	14,922	物流事業	被所有 60.7	貨物運送、取次・荷物の保管及び倉庫の賃借。
(連結子会社) 株式会社藤友物流 サービス	浜松市東区	50	物流事業	100.0	貨物運送、取次・荷物の保管、役員の兼任あり。
(連結子会社) 遠州トラック関西 株式会社	大阪府摂津市	20	物流事業	100.0	貨物運送、取次・荷物の保管、役員の兼任あり。
(連結子会社) 小笠運送株式会社	静岡県菊川市	10	物流事業	100.0	役員の兼任あり。

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 有価証券報告書提出会社であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2022年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
物流事業	1,226 (410)
その他	4 (-)
全社(共通)	40 (9)
合計	1,270 (419)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、季節工を含む。)は、()内に年間の平均人数を外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2022年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
990 (360)	44歳0ヶ月	8年8ヶ月	4,870,866

セグメントの名称	従業員数(人)
物流事業	946 (351)
その他	4 (-)
全社(共通)	40 (9)
合計	990 (360)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、季節工を含む。)は、()内に年間の平均人数を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、顧客への高品質で安定した物流サービスの提供を常に心がけ、会社の安定成長を通じて社会に貢献し、経営理念である“「心」心ある会社、心ある社員”の実現を図ってまいります。

この理念に基づき、物流専門家として技術、サービスの革新に努め、斬新な物流提案により顧客の物流業務の合理化に寄与するとともに、これらのことにより企業価値を最大限高めること、常に効率を追求し、堅実経営を行っていくことを経営方針としております。また、当社グループは、環境保護が企業の重要な社会的責任であることを認識し、エコドライブ活動や共同配送システム等を通じて、二酸化炭素排出量削減など環境に配慮した諸施策に取り組んでまいります。

こうした理念と方針のもと、株主や取引先をはじめとして社会から信頼される企業を目指して、事業活動に取り組んでまいります。

(2) 経営戦略等

イ 「顧客満足度 1」の物流企業を目指す

物流インフラの提供を使命として、顧客への貢献を第一に事業を進めます。

）安全品質を向上させるとともに、IT等の最新技術を駆使した業務効率化・省力化投資を進めてサービスレベルを高めます。

）当社車両と乗務員、作業員で運営する自社輸送体制を堅持し、顧客の需要に柔軟に対応し続けます。

）協力会社のネットワークを更に拡充します。

ロ 「従業員満足度 1」の物流企業を目指す

物流インフラの提供を使命とした従業員が、働きがいを感じて業務に取り組むことができ、従業員の高齢化、多様化に対応できる働きやすい労働環境をつくります。

ハ 法令を遵守し、安全第一に事業を進め、地域社会にやさしい物流企業を目指す

ガバナンスと安全品質管理・教育を更に徹底し、環境や社会に配慮したサービスを提供して、社会の持続的な成長に貢献します。

(3) 経営環境及び対処すべき課題

新型コロナウイルスは、終焉の兆しを見せず、また、ウクライナ紛争の長期化が懸念されるなど、世界経済は混迷の度合いを深めており、物流業界におきましても、燃料や資材などの価格への影響が懸念されております。

このような中、当社グループにおきましては「顧客満足度 1」、「従業員満足度 1」の物流企業を引き続き目指してまいります。

具体的には、以下の施策に重点的に取り組んでまいります。

第一に、「物流の2024年問題」への対応に向けて万全の体制で取り組んでまいります。働き方改革関連法によって2024年4月1日以降、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限が960時間となり、乗務員の収入減や運送・物流業者の売上、利益の減少が懸念されています。当社は、従業員の長時間労働の抑制、給与その他の待遇の改善に取り組む一方、東京と大阪の中間に位置する利点を活かし、中継輸送（e-change）の推進によって乗務員の負担軽減・長距離輸送の集車難の緩和を、荷主や同業となる各企業に働きかけてまいりました。あわせて、過酷な力仕事が多い、女性が働きにくいという課題に対処するため、倉庫作業の省力化・合理化に向けて自動搬送ロボットを導入するなど、職場環境の改善を進めております。

次に、環境への配慮をいたします。当社は、環境負荷の低減に資するトラック（ハイブリッド/EV/FCEV）や再生可能資源由来の燃料（リニューアブル・エネルギー）の導入に向けた調査や実証実験を進めるとともに、安全を第一に、人にも環境にもやさしい運転を進めてまいります。

続いて、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）の強化に取り組んでまいります。来年（2023年）9月には、本社隣接地に延床面積約3万1千平米の新たな物流施設が完成します。物流の合理化・外注化を進める企業に向けて、高品質の物流サービスを提供するとともに、今後も事業の拡大に向けて積極的に投資する所存です。

さらに、今後も拡大が予想されるeコマースの強化に向けて、宅配部門の強化に取り組んでまいります。

上記施策の実現に向けた営業活動を展開するため、営業組織を強化するとともに、ITなどの最新技術を積極的に導入し、サービスレベルの向上を図ってまいります。また、業務改善室を中心に輸送・倉庫業務の効率化に、営業戦略室においては戦略的物流商品の開発に、引き続き取り組む方針です。

一方、管理面におきましては、コーポレート・ガバナンス及び情報開示の充実、労働環境の改善、人材の確保・育成に向けた各種施策の実施、内部統制システムの運用面の充実、リスクマネジメントの向上など、経営管理体制の充

実に一段の努力を払ってまいりる所存です。また、最近のESG投資への関心の高まりやSDGsに関する社会の期待に対して、積極的に応える所存です。

(4) 中期経営計画（2020年4月～2023年3月）の数値目標（連結）

	2023年3月期 (第58期 目標)
営業収益	40,000百万円
営業利益	2,520百万円
事業投資額（期間累計）	16,100百万円
ROE（自己資本利益率）	8%以上
配当性向	30%

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

取引集中によるリスク

当社グループの顧客層は業種も多種多様で、物流エリアも東北地方から関西、九州地方に分散しているものの、インターネット通販に関連する取引の増加により、特定の取引先との取引が営業収益の30%以上を占めております。当社グループは、物流サービスの拡充により取扱業務を拡大することで、取引集中によるリスクの回避に努めてまいります。取引先との関係は良好かつ安定的に推移しておりますが、内外の状況により取引先を含めた事業環境が激変する可能性に加えて、主要な取引先との契約内容が変更あるいは解消された場合、当社グループの業績が影響を受けるリスクがあります。

燃料費変動のリスク

原油価格等の高騰により軽油価格が上昇した場合、燃料油脂費等の運送原価が増加します。集中購買やエコドライブの推進等により費用の削減に努めておりますが、これら費用の増加分を運賃に転嫁できない場合、当社グループの業績が影響を受ける可能性があります。

金利変動のリスク

当社グループは車輛の更新及び倉庫施設等の新設や更新のため、継続的な設備投資を行っております。有利子負債の圧縮に努めておりますが、必要な設備資金は主として外部借入により調達しております。主に固定金利での借入を行っておりますが、変動金利で調達している資金については金利変動の影響を受けることとなります。また、金利の変動により、将来の資金調達コストが影響を受ける可能性があります。

固定資産の減損リスク

当社グループは物流事業、不動産事業等を営んでおり、その業務の性格上、多額の固定資産を所有しております。今後、保有資産の時価下落や収益性の低下に伴う減損損失が発生する可能性があります。

法的規制及び環境規制に伴うリスク

当社グループは、一般貨物自動車運送事業、倉庫業等、国土交通大臣等の許可や登録に基づく事業を営んでおり、排ガス規制等、環境・安全に係る規制の影響を受けておりますが、低炭素社会への移行が社会全体の課題とされる中、規制強化の影響を受ける可能性があります。当社グループは、業界における各種の法的規制に適合した経営の遂行を最重要課題とし法令遵守の徹底を図っておりますが、万一、当該規制に抵触し、事業の停止、許可・登録の取消処分等を受けるような事態になった場合は、事業自体の遂行が困難となるケースも想定されます。また、法的規制が強化されることにより人的、資金的負担が増大する可能性もあります。

自然災害等のリスク

当社グループが主力地盤とする地域は東海地震の可能性が言及されている一帯に位置しています。大規模な地震、津波、風水害、火災等の発生により、当社グループの倉庫、車輛等の設備や道路、通信網等が重大な損害を受け、事業の一時的な中断、ひいては取引の縮小や解消、従業員の身体・生命に関わる安全レベルの低下、災害対策のための負担の増加等が発生する可能性があります。当社グループでは、社員の安否確認やBCPの策定、防災訓練の実施などの対策を講じておりますが、想定を超える規模で被害が発生した場合には当社グループの業績が重大な影響を受ける可能性があります。

感染症発生に関するリスク

当社グループは関東地区から関西地区にかけて事業所が点在しており、リスクの分散化が図られていると認識しておりますが、想定を超える規模で新型インフルエンザや新型コロナウイルス等の未知の感染症が流行した場合、当社グループや取引先の事業活動の停止または事業継続に支障をきたす事態の発生により、当社グループの経営成績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

情報漏洩のリスク

当社グループは、物流業務の受託にあたり、取引先の各種情報を取り扱っております。このため、プライバシーポリシーの制定をはじめ、情報管理やコンプライアンスに関する教育・指導の徹底に努めております。万一、当社グループの責任により当該情報が漏洩し、取引先に損害を与えた場合は多額の損害賠償請求を受ける可能性があるため損害賠償保険に加入しておりますが、社会的信用を失うリスクがあります。

システムリスク

当社グループの業務はその大半をシステムに依拠しているため、自然災害、ウイルスの侵入、不正アクセスなどによりシステム障害が発生し、かつ長期間障害が継続した場合には業務に重大な支障を来すおそれがあります。これについてはデータセンターの活用によりリスクの低減を図っているところですが、今後の多様な事業展開と情報量の飛躍的な増加も見据え、これら諸リスクに対処するため、基幹システムの統合刷新をいたしております。

重大な事故発生のリスク

当社グループは、貨物運送事業を営むうえで多くの車輛を使用し、日々運行を行っております。安全管理は当社グループの最重要課題として取り組んでおりますが、万一、重大な交通事故等を発生させてしまった場合は、取引先のみならず社会一般の信用も失墜することになり、多額の損害賠償請求、営業停止等の行政処分などにより、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

コンプライアンス違反に関するリスク

万一、会社や役員・従業員によるコンプライアンス違反に関する事項が発生した場合、取引先等の信頼を失うことにより事業活動に重大な影響を受ける可能性、あるいは過去の財務諸表等の修正を要する事態に発展する可能性があります。

当社グループは、コンプライアンス実践のため企業行動指針（10項目）を定め、平素より法令遵守の企業風土の醸成に努めております。また、法令や諸規程に基づく内部統制が機能するよう内部監査室や内部統制委員会等において、万一にも法令違反や重大な誤謬が発生しないよう監視・監督に努めております。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概況は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しておりますが、これによる影響は軽微であります。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度のわが国経済は、新型コロナウイルスの感染再拡大や半導体等の供給不足の影響を受け、全体として回復基調ながらも力強さに欠ける結果となりました。物流業界におきましても、消費関連・生活関連貨物は堅調に推移したものの、コロナ以前の水準には戻らず、一方、原油価格の高騰は長期化し、人手不足への対応とともに、経営の大きな課題となっております。

このような状況の下、当社グループにおきましては、巣ごもり需要を背景にインターネット通販向け宅配貨物が増加したこと、工業製品用部品や日用品などの配送センター業務が拡大したこと、前年度第3四半期から連結対象となった小笠運送株式会社が期初から連結されたこと等から、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

イ 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ18億7百万円増加し、315億91百万円となりました。当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億21百万円増加し、129億84百万円となりました。当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億86百万円増加し、186億7百万円となりました。

ロ 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、営業収益（売上高）427億51百万円（前期比8.1%増）、営業利益32億16百万円（前期比2.5%増）、経常利益32億99百万円（前期比3.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益23億42百万円（前期比3.6%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

物流事業は、営業収益426億5百万円（前期比8.3%増）、セグメント利益39億56百万円（前期比4.1%増）となりました。

その他（不動産事業等）は、営業収益1億45百万円（前期比22.4%減）、セグメント利益76百万円（前期比3.8%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は48億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億74百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は16億72百万円（前年同期比16億56百万円減）となりました。主な増加は、税金等調整前当期純利益33億円、減価償却費7億38百万円、仕入債務の増加額2億20百万円であり、主な減少は、法人税等の支払額12億72百万円、売上債権の増加額11億29百万円、未払消費税等の減少額2億54百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は12億77百万円（前年同期比8億33百万円増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出12億72百万円があったことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は6億69百万円（前年同期比6億16百万円減）となりました。これは主に長期借入れによる収入7億70百万円に対し、長期借入金の返済支出8億9百万円、配当金の支払額5億96百万円があったことなどによるものです。

生産、受注及び販売の実績

セグメントごとの区分別営業収益は次のとおりであります。

なお、当社グループは物流サービスの提供が主要な事業のため、生産及び受注の状況は記載を省略しております。

セグメントの名称	区分	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
		金額(百万円)	前年同期比(%)
物流事業	輸送部門	32,362	107.0
	倉庫部門	10,242	112.6
	計	42,605	108.3
その他	不動産事業等	145	77.6
合計		42,751	108.1

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における主な相手先別の営業収益及び当該営業収益の総営業収益に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
アマゾンジャパン合同会社	13,597	34.4	13,508	31.6

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

イ 財政状態

(資産合計)

当連結会計年度末における流動資産は112億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億72百万円増加しました。これは主に現金及び預金が2億74百万円減少したものの、受取手形及び営業未収入金が10億96百万円増加したことによるものであります。固定資産は203億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億34百万円増加しました。これは投資その他の資産が60百万円減少したものの、有形固定資産が9億43百万円、無形固定資産が52百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、315億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億7百万円増加しました。

(負債合計)

当連結会計年度末における流動負債は69億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億37百万円増加しました。これは主に未払法人税等が3億10百万円、その他に含めて表示している未払消費税等が2億54百万円減少したものの、その他に含めて表示している設備電子記録債務が4億62百万円、電子記録債務が1億37百万円、支払手形及び営業未払金が95百万円増加したことによるものであります。固定負債は60億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ15百万円減少しました。

この結果、負債合計は、129億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億21百万円増加しました。

(純資産合計)

当連結会計年度末における純資産合計は186億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億86百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益23億42百万円及び剰余金の配当5億96百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は58.9%(前連結会計年度末は56.8%)となりました。

□ 経営成績

営業収益は、巣ごもり需要を背景にインターネット通販向け宅配貨物が増加したこと、工業製品用部品や日用品などの配送センター業務が拡大したこと、前年度第3四半期から連結対象となった小笠運送株式会社が期初から連結されたこと等から、427億51百万円（前期比8.1%増）となりました。

営業原価は、インターネット通販向け宅配業務や工業製品用部品、日用品などの配送センター業務の拡大に伴い人件費、外注費や燃料費が上昇したこと等により、前連結会計年度に比べ30億37百万円増加の385億53百万円となりました。また、販売費及び一般管理費は、求人費や減価償却費が増加した結果、95百万円増加の9億81百万円となりました。

営業利益は、上記の結果、前連結会計年度に比べ77百万円増加の32億16百万円となりました。

営業外損益は、受取保険金が13百万円増加、保険解約返戻金が8百万円増加したことなどにより、前連結会計年度の45百万円の収益計上（純額）から37百万円増加の83百万円の収益計上（純額）となりました。

経常利益は、上記の結果、前連結会計年度に比べ1億15百万円増加の32億99百万円となりました。

特別損益は、負ののれん発生益が90百万円減少、補助金収入が58百万円減少、固定資産圧縮損が52百万円減少したことなどにより、前連結会計年度の91百万円の利益計上（純額）から91百万円減少の0百万円の利益計上（純額）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、上記に加え、人材確保等促進税制の適用により法人税等が減少したこと等から、前連結会計年度に比べ81百万円増加の23億42百万円となりました。

当社グループの経営に影響を与える大きな要因としては、「2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

なお、当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症による当社グループの経営成績に与える影響は軽微でありました。翌連結会計年度においては、ワクチン接種が進行すること等により感染拡大が収束すると見込まれるため、影響は軽微であると予想しております。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、運転資金需要のうち主なものは、営業原価、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資によるものであります。

運転資金は自己資金及び短期借入金、設備資金は自己資金及び長期借入金により調達する方針です。

なお、資金調達コストの低減に努める一方、金利変動リスクに晒されないよう、長期借入金については、主に固定金利での借入を行っております。

また、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は64億64百万円、現金及び現金同等物の残高は48億8百万円となっております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（重要な会計上の見積り）に記載のとおりであります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響については、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（追加情報）に記載のとおりであります。

経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等
中期経営計画（2020年4月～2023年3月）の2年目である2022年3月期の達成・進捗状況は以下のとおりであります。

	2023年3月期 (第58期 目標)	2022年3月期 (第57期 実績)
営業収益	40,000百万円	42,751百万円
営業利益	2,520百万円	3,216百万円
事業投資額（期間累計）	16,100百万円	2,385百万円
R O E（自己資本利益率）	8%以上	13.2%
配当性向	30%	25.5%

第57期は、営業収益、営業利益ともに最終目標を達成しました。一方、事業投資額は設備投資案件の延期や進捗の停滞により計画を大きく下回っておりますが、今後も積極的に設備投資を行い、事業の拡大を目指す方針です。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額（有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含む）は1,832百万円であります。その主要なものは、静岡県袋井市の本社建物建設342百万円、静岡県浜松市北区の倉庫建物建設292百万円、ネットワーク型デジタルタコグラフ464台152百万円などであります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2022年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地	リース資産	その他	合計	
本社事業部 (静岡県袋井市)	物流事業	物流倉庫 車輛	144,395.79 (83,156.38)	2,024	129	5,713	-	48	7,916	441 (216)
西日本事業部 (浜松市西区)	物流事業	物流倉庫 車輛	40,708.15 (39,065.08)	1,832	38	1,247	-	56	3,175	184 (87)
関東事業部 (東京都港区)	物流事業	物流倉庫 車輛	38,721.81 (23,843.88)	250	34	2,035	-	30	2,350	321 (48)
不動産営業所 (静岡県袋井市)	その他	不動産業用施設 太陽光発電設備	34,462.71 (5,456.78)	9	0	2,135	157	0	2,302	4 (-)
本社 (静岡県袋井市)	全社(共 通)	統括業務施設	18,275.46 (4,856.32)	51	8	107	-	11	178	40 (9)

(2) 国内子会社

2022年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	土地面積 (㎡)	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
					建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地	リース資産	その他	合計	
㈱藤友物流 サービス	本社 (浜松市 東区)	物流事業	物流倉庫 車輛	6,521.68 (8,395.20)	227	16	214	-	5	462	124 (26)
遠州トラック 関西㈱	本社 (大阪府 摂津市)	物流事業	物流倉庫 車輛	16.80 (991.76)	9	3	0	-	2	15	63 (1)
小笠運送㈱	本社 (静岡県 菊川市)	物流事業	物流倉庫 車輛	11,064.67 (11,891.07)	149	34	143	38	3	369	93 (32)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含めておりません。

2. 上記土地面積のうち、()は、賃借しているもので外書しております。

3. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

4. 上記の他、主要な賃借及びリース設備は次のとおりであります。

2022年3月31日現在

会社名	セグメントの 名称	設備の内容	賃借及び リース期間	年間賃借及びリース料 (百万円)
提出会社 (子会社含む)	物流事業	倉庫建物等 (賃借)	3年～20年	1,036
		輸送用車輛等 (リース)	4年	492

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気動向、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的には連結会社各社が個別に策定しておりますが、関係会社会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

重要な設備の新設

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月日		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	西日本事業部 (浜松市西区)	物流事業	駐車場用地 (浜松市北区)	30	3	自己資金及 び借入金	2020.4	2022.7	2,947㎡
提出会社	西日本事業部 (浜松市西区)	物流事業	倉庫建物 (浜松市北区)	849	273	自己資金及 び借入金	2020.6	2022.7	2,868㎡
提出会社	本社事業部 本社 (静岡県袋井市)	物流事業 全社(共通)	事務所建物外 (静岡県袋井市)	900	312	自己資金及 び借入金	2022.1	2023.9	2,348㎡
提出会社	本社事業部 (静岡県袋井市)	物流事業	倉庫建物 (静岡県袋井市)	5,000	46	借入金	2022.3	2023.8	30,884㎡

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2022年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年6月23日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,546,000	7,546,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)(事業年度末現在) スタンダード市場(提出日現在)	単元株式数 100株
計	7,546,000	7,546,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
1998年5月20日	686,000	7,546,000	-	1,284	-	1,070

(注) 上記の増加は、1998年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主の所有株式数1株につき1.1株の分割を行ったものであります。

(5) 【所有者別状況】

2022年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	16	47	16	5	2,083	2,179	-
所有株式数(単元)	-	6,632	337	48,165	894	27	19,350	75,405	5,500
所有株式数の割合(%)	-	8.79	0.45	63.87	1.19	0.04	25.66	100.00	-

(注) 1. 自己株式84,417株は「個人その他」に844単元、「単元未満株式の状況」に17株含まれております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2022年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社住友倉庫	大阪市北区中之島3丁目2-18号	4,527	60.68
澤田邦彦	浜松市北区	217	2.92
遠州トラック従業員持株会	静岡県袋井市木原627番地の3	172	2.30
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2丁目10-17	169	2.27
有限会社スリーナイン	静岡県袋井市永楽町325番地	131	1.76
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	100	1.34
株式会社静岡銀行	静岡市葵区呉服町1丁目10番地	87	1.17
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	85	1.14
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3丁目9番地	72	0.97
静岡県信用農業協同組合連合会	静岡市駿河区曲金3丁目8-1	60	0.81
計	-	5,623	75.36

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 84,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,456,100	74,561	-
単元未満株式	普通株式 5,500	-	-
発行済株式総数	7,546,000	-	-
総株主の議決権	-	74,561	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が600株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
遠州トラック株式会社	静岡県袋井市木原 627番地の3	84,400	-	84,400	1.12
計	-	84,400	-	84,400	1.12

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	91	229,115
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2022年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)	954	671,206	-	-
保有自己株式数	84,417	-	84,417	-

3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を常に念頭に置き、業績の推移、経営環境、配当性向等を総合的に勘案しつつ、安定した配当を継続することを基本方針としております。

上記方針に沿い、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本的な方針としており、また、機動的な配当政策が実施できるよう、会社法第459条第1項の規定に基づき、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議をもって剰余金の配当等の決定ができる旨を定款に定めております。

内部留保金につきましては、現在及び将来に亘る設備投資や経営基盤強化のために有効に活用すべく、その充実を図っていく方針です。

このような方針に基づき、当中間期の株主配当金につきましては、1株当たり普通配当金を40円といたしました。当期末の配当金につきましては、1株当たり普通配当金を40円にて取締役会決議をいたしております。これにより、中間配当金40円を合わせた当期の年間配当金は80円となります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2021年11月9日 取締役会決議	298	40
2022年5月13日 取締役会決議	298	40

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを、当社の経営を規律し、企業価値、ひいては株主共同の利益を向上させるための重要な経営課題と位置付けております。基本方針として、(1)株主の権利の尊重・平等性の確保、(2)株主以外のステークホルダー(顧客、取引先、債権者、地域社会及び従業員等)との適切な協働、(3)適切な情報開示及び株主との建設的な対話、(4)取締役会の役割・責務の適切な遂行、(5)業務遂行に対する実効性の高い監督の実施を重視し、コーポレート・ガバナンスの一層の強化・充実に取り組んで参ります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社の事業規模・内容から監査役設置会社形態が最適であると判断し、監査役制度を採用しております。当社の役員9名(取締役5名、監査役4名)のうち社外役員が4名(社外取締役2名、社外監査役2名)を占め、このうち要件を充たす社外役員4名全員を独立役員に選任しております。社外役員の各氏は多彩な経歴を有し、知見に富み、当社のコーポレート・ガバナンス体制を監視、監督するに相応しい陣容であると認識しております。また、取締役の任期を1年とするとともに、執行役員制度を導入しております。経営の意思決定の迅速化と責任の明確化を図り、経営の透明性、健全性の向上に資するものと考え、以下の体制を採用しております。

a.取締役会

当社の取締役会は現在5名の取締役(うち社外取締役2名)で構成され、毎月1回の定時取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、グループ全般に係る経営戦略、事業案件等につき審議を行っています。

b.監査役(監査役会)

当社は監査役制度を採用し、監査役会は現在監査役4名(うち社外監査役2名)で構成されております。監査役は監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、業務や財務状況等の調査を通じて、取締役の職務執行状況を監査しております。

c.その他主要な委員会等

) 経営会議

常勤取締役、常勤監査役、執行役員、部長等で構成され、主要な経営課題の協議の場として、毎週開催しております。取締役会に付議、報告される案件は経営会議にて検証し、取締役会における審議内容の精緻化、経営の意思決定の迅速化に活かしております。

) 内部統制委員会

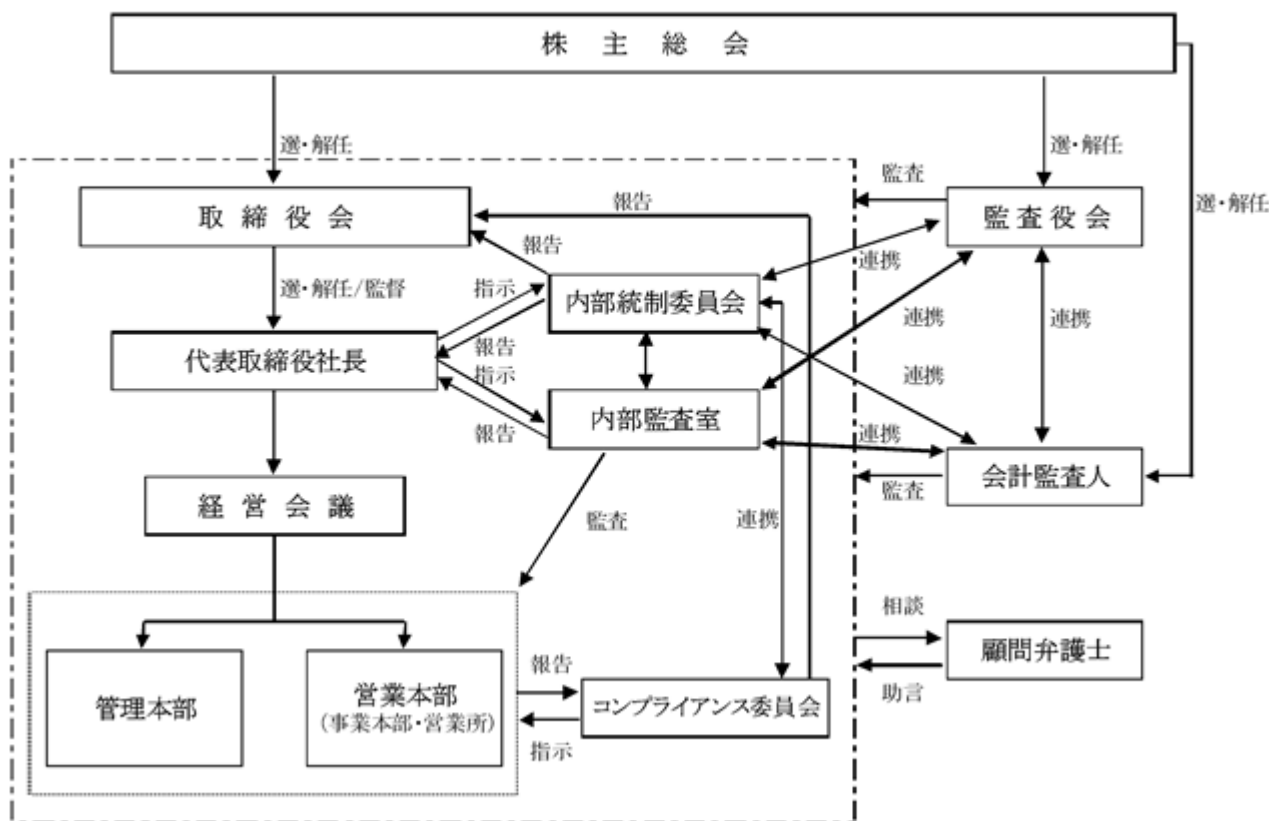
取締役社長を委員長とし、常勤取締役、常勤監査役、執行役員、部長等で構成され、原則として四半期ごと、また必要に応じ随時開催しております。同委員会は、内部統制システムの整備・運用に関する検証、課題に対する対策の立案、内部統制に関するグループ全体の指導・統括を行っています。

) コンプライアンス委員会

取締役社長を委員長とし、常勤取締役、常勤監査役、執行役員、部長等で構成され、コンプライアンスに関する基本方針の策定、企業行動指針の遵守状況の検証、リスク管理に関する統括、内部通報制度(ヘルプライン)で提起された事案の対応などに当たります。

なお、内部通報制度の利用促進のため、受付窓口を社内(総務部長)及び社外(顧問弁護士)に設けております。

【コーポレート・ガバナンス体制図】



企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社は、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会において決議し、金融商品取引法が定める「財務報告に係る内部統制」の実現に向けた社内体制の整備に努めております。

具体的には、全社統制及び業務統制の強化のため、社内規程・手順書の整備と運用の徹底、業務プロセスに係る自己点検制度の推進、事業所に対する巡回指導等に努めております。内部統制システムの整備・運用状況については前記のとおり内部統制委員会にて統括しております。

また、コンプライアンスの推進のため、コンプライアンス規程において、「企業行動指針」（10項目）及び「反社会的勢力による被害を防止するための基本方針」（5項目）を定め、コンプライアンス重視の社内風土の醸成を図っております。万一、法令違反等不適切な事実を発見した場合は、コンプライアンス委員会にて審議し、これに類する日々の情報は内部通報制度（ヘルプライン）等を通じて伝達される体制を構築しております。

b. リスク管理体制の整備の状況

当社は、経営の意思決定のタイミングや巧拙に伴う全般的な事業運営リスクや機会損失リスク、与信リスク、システムリスク、環境侵害リスク、訴訟リスク等、多岐にわたる諸リスクを的確に把握するための一助として、リスク管理規程を定め、リスクアンケートに基づき、リスクの抽出、評価、分析、対策立案及び報告等を行う仕組みを制度化しています。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は関係子会社管理規程に基づき、子会社に対し、企業集団としての経営管理に当たっております。具体的には、定期的に関係会社会議を主催し、子会社の業務執行状況等の報告を受けるとともに、必要な指示伝達を行います。同会議は必要に応じて随時招集します。なお、子会社の月次の業務執行状況や重要な経営事項は当社取締役会に付議、報告するよう規定しております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、その期待される役割を十分に発揮できるよう、業務執行取締役等を除く取締役及び監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる当社への損害賠償責任を一定の範囲に限定する契約を締結できる旨を定款に定めております。これに基づき、当社は現在、上記に該当する一部の役員との間で当該責任限定契約を締結しております。

なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としておりません。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約者の範囲は当社及び当社の子会社の取締役及び監査役（当事業年度中に在任していた者を含む。）であり、保険料は事業規模に応じて各社が按分して負担しております。当該保険契約の内容の概要は、被保険者が、その職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により保険会社が補填するものであり、1年毎に更新しております。

取締役の定数

当社の取締役の定数は、10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により行う旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等の決定を取締役会の権限とし、機動的な株主還元策が実施できるようにするためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(2) 【 役員の状況】

役員一覧

男性9名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役) 社長執行役員	澤田 邦彦	1957年6月4日生	1981年3月 当社入社 1986年5月 当社取締役 1991年5月 当社常務取締役 1993年10月 当社常務取締役営業本部長兼輸送事業部長 1996年6月 当社代表取締役常務取締役営業本部長 1996年10月 当社代表取締役常務取締役営業本部長兼倉庫事業部長 1998年4月 当社代表取締役専務取締役営業本部長 2001年6月 当社代表取締役社長 2002年4月 遠州トラック関西株式会社代表取締役社長 2005年7月 株式会社中国遠州コーポレーション代表取締役会長 2007年6月 当社代表取締役社長兼社長執行役員 2009年6月 当社代表取締役社長兼社長執行役員営業本部長 2013年6月 当社代表取締役社長兼社長執行役員(現任)	(注) 3	217
取締役 常務執行役員 営業本部長	金原 秀樹	1960年12月27日生	1991年12月 当社入社 2004年6月 当社取締役横浜営業所長 2007年6月 当社執行役員関東事業部長 2010年6月 当社執行役員本社事業部長 2013年6月 株式会社中国遠州コーポレーション代表取締役社長 2013年6月 当社執行役員(中国事業担当) 2015年6月 当社取締役兼常務執行役員営業本部長兼営業戦略室長 2016年3月 当社取締役兼常務執行役員営業本部長兼西日本事業部長兼営業戦略室長 2016年6月 当社取締役兼常務執行役員営業本部長兼営業戦略室長 2017年10月 当社取締役兼常務執行役員営業本部長(現任)	(注) 3	19
取締役 常務執行役員 管理本部長 兼経営企画部長	久保田 健	1961年7月9日生	1985年4月 株式会社住友倉庫入社 2003年9月 青島住友国際物流有限公司総経理 2011年7月 株式会社住友倉庫事業推進部次長 2011年11月 Rabigh Petrochemical Logistics Deputy General Manager 2015年6月 当社常務執行役員管理本部長兼経営企画部長 2017年10月 当社常務執行役員管理本部長兼経営企画部長兼システム部長 2018年6月 当社取締役兼常務執行役員管理本部長兼経営企画部長兼システム部長 2020年6月 当社取締役兼常務執行役員管理本部長兼経営企画部長(現任)	(注) 3	-
取締役	斉藤 薫	1952年12月21日生	1976年4月 遠州鉄道株式会社入社 2005年6月 同社取締役 2013年6月 同社代表取締役社長(現任) 2020年6月 当社社外取締役(現任) 2021年12月 浜松商工会議所 会頭(現任)	(注) 3	0

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	山本 正幸	1969年9月17日生	1992年4月 スズキ株式会社入社 1999年4月 弁護士登録(静岡県弁護士会) まどか法律事務所入所 2003年4月 同法律事務所パートナー 2014年4月 静岡県弁護士会副会長 2014年6月 当社社外監査役 2019年7月 まどか法律事務所代表弁護士(現任) 2022年6月 当社社外取締役(現任)	(注)3	-
常勤監査役	佐野 明人	1961年8月1日生	2009年8月 当社入社 2010年6月 株式会社中国遠州コーポレーション管理部長 2015年6月 同社取締役管理部長 2017年7月 当社内部監査室長 2020年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	-
監査役	竹本 伸一	1966年5月6日生	1989年4月 株式会社住友倉庫入社 2008年7月 同社業務部業務課長 2013年7月 住倉マレーシア会社社長 2020年6月 株式会社住友倉庫東京総務部長(現任) 2022年6月 当社監査役(現任)	(注)5	-
監査役	堀池 英伸	1954年4月15日生	1977年4月 株式会社静岡銀行入行 2004年6月 同行興津支店長 2006年6月 同行北安東支店長 2007年7月 静銀ビジネスクリエイト株式会社取締役常務執行役員 2015年5月 スター精密株式会社常勤監査役 2016年5月 同社取締役(常勤監査等委員) 2018年6月 当社社外監査役(現任)	(注)4	-
監査役	田中 範雄	1951年2月10日生	1973年4月 監査法人朝日会計社(現有限責任あずさ監査法人)入社 1976年3月 公認会計士登録 1977年6月 税理士登録 1978年1月 田中範雄公認会計士・税理士事務所開設 2018年7月 田中公認会計士共同事務所開設 税理士法人TMS浜松設立 代表社員(現任) 2020年6月 当社社外監査役(現任)	(注)4	-
計					237

- (注) 1. 取締役 齊藤薫、山本正幸の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 堀池英伸、田中範雄の両氏は、社外監査役であります。
3. 2022年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 2020年6月19日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 2019年6月18日開催の定時株主総会の終結の時から4年間(前任者の辞任に伴い2022年6月22日開催の定時株主総会にて新たに選任されたため、当社定款の規定により、前任者の任期満了の時まで)
6. 監査役 竹本伸一氏は、株式会社住友倉庫の人事異動により、2022年6月29日付で同社関連事業部長に就任予定であります。

7. 当社では、経営の意思決定と業務執行の機能を分離し、業務運営上の役割及び責任を明確化するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は、本表「役員一覧」に記載の3名に、取締役を兼務していない以下の4名を加えた計7名であります。

常務執行役員	小澤 宙通	営業本部副本部長
執行役員	清水 晃	業務改善室長
執行役員	小林 秀行	管理本部副本部長兼総務部長兼経営企画部付部長
執行役員	鈴木 隆幸	本社事業部長

社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役 斉藤薫氏は、静岡県西部を代表する運輸企業のトップとして、豊富な経験と高い見識を有し、社外取締役としての監督機能及び役割を果たしていただいております。今後も社外取締役としての職責を適切に遂行いただけるものと判断しております。同氏は、遠州鉄道株式会社の代表取締役及び同社グループ各社の取締役並びに遠州開発株式会社の代表取締役に就任していますが、当社との取引額はいずれも僅少であります。以上のことから、当社は、同氏が証券取引所が定めた独立役員の要件を充たしているうえ、実質的にも独立性を保持しているものと判断し、当社の独立役員に選任しております。

社外取締役 山本正幸氏は、企業経営に直接関与した経験はないものの、一般事業会社への勤務歴があり、また弁護士として企業法務に関する専門的な知識・経験を有し、当社の社外監査役としての在任期間中は、独立した立場からの確かな意見を述べ、その職責を果たしていただいております。社外取締役としての職責を適切に遂行いただけるものと判断しております。同氏は、現在当社の顧問弁護士を務めております。当社は、同氏との法律顧問契約に基づき、同氏に対し顧問料の支払いを行っておりますが、その額は多額なものとは言えず、影響を及ぼすものではありません。以上のことから、当社は、同氏が証券取引所が定めた独立役員の要件を充たしているうえ、実質的にも独立性を保持しているものと判断し、当社の独立役員に選任しております。

社外監査役 堀池英伸氏は、長年の銀行勤務の経験を有し、事業会社においても取締役や監査役の経験を有することから、当社の経営全般に対する有用な意見、提言が期待でき、社外監査役としての監査機能及び役割を果たしていただけるものと考えております。なお、同氏と当社との間には特別の利害関係はありません。以上のことから、当社は、同氏が証券取引所が定めた独立役員の要件を充たしているうえ、実質的にも独立性を保持しているものと判断し、当社の独立役員に選任しております。

社外監査役 田中範雄氏は、企業経営に直接関与した経験はないものの、公認会計士・税理士として、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、独立した中立的な立場から助言、提言が期待でき、社外監査役としての監査機能及び役割を果たしていただけるものと考えております。同氏は、税理士法人TMS浜松の代表社員であり、当社の顧問税理士を務めております。当社は、同社との顧問契約に基づき、同社に対し顧問料の支払いを行っておりますが、その額は多額なものとは言えず、影響を及ぼすものではありません。以上のことから、当社は、同氏が証券取引所が定めた独立役員の要件を充たしているうえ、実質的にも独立性を保持しているものと判断し、当社の独立役員に選任しております。

現在当社において、社外取締役及び社外監査役の当社からの独立性に関して特段の基準又は方針を定めておりませんが、相応の客観性、専門性を有し、一般株主と利益相反が生じるおそれがない立場の者を選任することを基本的な考えとしております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、経営判断に資するため、取締役会のほか会社の重要な会議に適宜出席し、各事業所における業務の運営状況等に関する情報収集に努めるとともに、改善提案等の有益な提言を行っております。

社外監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行状況の監査に努めております。また、常勤監査役とともに内部監査室と連携し、監査役監査と内部監査の各監査計画、実施方法等について相互に必要な調整を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社は監査役会設置会社で常勤監査役1名(社内監査役)、非常勤監査役3名(社内監査役1名、社外監査役2名)の4名で構成されております。

監査役監査の手続き、役割分担については、監査役会で策定する監査方針及び役割分担に基づき、常勤監査役の佐野明人氏は各種重要会議への出席、重要な書類の閲覧、各部署への往査と期末決算監査等を担っており、非常勤監査役の、竹本伸一、堀池英伸、田中範雄の3氏は、取締役会等重要な会議への限定的な出席と分担しております。

なお、常勤監査役 佐野明人氏は、当社入社後は子会社において中国現地法人の経営を管理し、当社においては内部監査室長に就任するなど、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役 竹本伸一氏は、当社の親会社である株式会社住友倉庫において関係会社を監督する立場であることから、当社業務の監査に関する適切な助言、提言が期待できるものと考えております。

社外監査役(2名)につきましては、「(2) 役員状況 社外役員状況」に記載のとおりです。

当事業年度において当社は監査役会を13回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
佐野 明人	13回	13回
天春 毅	13回	13回
山本 正幸	13回	13回
堀池 英伸	13回	13回
田中 範雄	13回	13回

(注) 非常勤監査役 山本正幸氏及び天春毅氏は2022年6月22日開催の定時株主総会終結の時をもって退任しております。また、山本正幸氏は2022年6月22日付で社外取締役に就任しております。

監査役会における主な検討事項として、内部統制システムにおける各体制の有効性及び改善状況、コンプライアンスやコーポレートガバナンス・コードへの対応状況、会計監査人の監査の相当性、競合取引・利益相反等について検討しております。

常勤監査役の活動として、取締役等へのヒアリング、現場往査(子会社を含む)、取締役会や各種重要会議に参加し、助言・提言を行っております。また、重要な書類等の閲覧点検し、法令違反や著しく不当な事項がないかなどについて監査しております。

内部監査の状況

内部監査室は室長以下2名で構成されております。

監査役、内部監査室及び会計監査人は、それぞれ監査計画、監査実施結果等に関し、随時情報交換の場を持ち、密接なコミュニケーションを図っています。また、内部監査室、監査役は各監査の実効を上げるため、会計監査人が実施する事業所監査、子会社監査に適宜同行しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

15年間

c. 業務を執行した公認会計士

近藤 康仁
 溝 静太

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名、会計士試験合格者等5名、その他1名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

会計監査人の監査品質、品質管理、独立性、総合的能力等の要素を検討し選定しております。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人に対して評価を行っております。この評価については、会計監査人が独立の立場を保持し、且つ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、監査体制について必要に応じて説明を求め、会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29	-	29	-
連結子会社	-	-	-	-
計	29	-	29	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(a.を除く)

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠など適切性について必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をしております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は2021年6月22日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針等（以下、決定方針）の変更を決議しており、その概要は次のとおりであります。

なお、監査役の報酬体系は、固定報酬である金銭報酬のみで構成し、各監査役の報酬等は監査役の協議により決定する方針としております。

a. 基本方針

当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能する報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とする。

具体的には、取締役（社外取締役を除く。）の報酬体系は、固定報酬と業績連動報酬からなる金銭報酬及び株式報酬で構成し、社外取締役の報酬体系は、固定報酬である金銭報酬のみで構成する。

b. 各報酬等の算定方法等の決定に関する方針

取締役（社外取締役を除く。）に支給する報酬等のうち、月例の固定報酬である金銭報酬は、役位及び職責等に応じ、経営環境及び経済情勢等を総合的に勘案して決定するものとする。

一方、社外取締役に支給する固定報酬である金銭報酬は、経営環境及び経済情勢等を総合的に勘案して決定する。

業績連動報酬である金銭報酬は、当社の掲げる運輸安全マネジメント目標の達成を条件に、当社グループの業績向上のインセンティブとなるよう連結営業収益及び連結営業利益を業績指標として採用しており、当該指標の目標値に対する達成度合いに応じて支給額が変動する。目標となる業績指標とその値は、中期経営計画と整合するよう計画策定時に設定し、適宜、環境の変化に応じて指名・報酬委員会の答申を踏まえて見直しを行うものとする。全取締役に支給する金銭報酬に関する報酬等の総額は、固定報酬及び業績連動報酬を合せて、月額15百万円以内とする。

非金銭報酬である株式報酬については、譲渡制限付株式報酬制度を導入しており、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与するとともに、株主と一層の価値共有を進めることを目的として、役位及び職責等に応じて定めた金額に相当する数の譲渡制限付株式を支給する。譲渡制限付株式の譲渡制限期間は、割当日から当社の取締役その他当社取締役会で定める地位のいずれの地位も喪失する日までの間とし、割当てを受けた取締役が譲渡制限期間中に法令、当社の内部規程又は譲渡制限付株式割当契約に重要な点で違反したと取締役会が認めた場合等において、当社は割り当てた株式を無償で取得する。

譲渡制限付株式に関する報酬等の総額は、年額50百万円以内とする。

上記の取締役報酬等の支給時期及び個人別配分等については、原則として株主総会終了後に開催する取締役会で決議し、金銭報酬は以降1年間毎月支給し、株式報酬は当該任期期間内に支給することとする。

c. 各報酬等の支給割合の決定に関する方針

各報酬等の割合は、当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業をベンチマークとする報酬水準を踏まえ、上位の役職位ほど業績報酬の割合が高まる構成とし、指名・報酬委員会において検討を行う。取締役会及び取締役会の委任を受けた取締役社長は指名・報酬委員会の答申の内容を尊重し、当該答申で示された種類別の範囲内で取締役の個人別の報酬等の内容を決定することとする。

各個人の報酬等の総額に対する支給割合は、役位及び職責等により異なるものの、概ね固定報酬が8割、業績連動報酬が1割、株式報酬が1割とすることを目安にしている。

また、社外取締役の報酬等は、固定報酬である金銭報酬のみで構成されており、全額が固定報酬である。

d. 各報酬等の決定手続きに関する事項

取締役の個人別報酬等の決定に際しては、社外取締役の適切な関与・助言を得ることにより報酬等の決定手続の客観性や透明性を一層高めるため、取締役会のもとに任意の諮問機関として社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会を設置している。

同委員会は、取締役の個人別報酬等に関する事項の取締役会における審議に先立ち、当該事項の原案について審議を行い、その結果を取締役に答申する。

これを踏まえ、金銭報酬については、支給額の最終的な決定を取締役社長に一任する旨、譲渡制限付株式については、取締役（社外取締役を除く。）に対して割り当てる旨を取締役会においてそれぞれ決議し、金銭報酬の支給額は取締役社長が最終決定することとする。

e. 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の金銭報酬の額は、1995年6月29日開催の第30回定時株主総会において月額15百万円以内と決議しております（ただし、使用人給与は含まない）。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は9名（うち、社外取締役は0名）です。また、当該金銭報酬とは別枠で、2021年6月22日開催の第56回定時株主総会において、株式報酬の額を年額50百万円以内、株式数の上限を年30,000株以内（社外取締役は付与対象外）と決議しております。当該定時株主総会終結時点の取締役（社外取締役を除く。）の員数は3名です。

監査役の金銭報酬の額は、2020年6月19日開催の第55回定時株主総会で月額4百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は5名です。

f. 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当社では、取締役の報酬等のうち金銭報酬については、取締役会の委任決議に基づき取締役社長澤田邦彦が取締役の個人別の報酬額の具体的内容を決定しております。

その権限の内容は、各取締役の固定報酬及び各取締役（社外取締役を除く。）の業績連動報酬の額の決定であり、当該権限を委任した理由は、当社全体の業務を俯瞰しつつ各取締役の評価を行うのは取締役社長が最も適していると判断したためであります。

取締役会は、当該権限が取締役社長によって適切に行き渡されるよう、任意の諮問機関である指名・報酬委員会に当該報酬の原案を諮問し、同委員会から答申を得ることとしております。なお、株式報酬については、指名・報酬委員会の答申を得た後、取締役会で取締役（社外取締役を除く。）に対して割り当てる株式数を決議することとしております。

当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、取締役会は、報酬等の決定方法及び決定された報酬等の内容が、決定方針又は同方針策定以前に定めた報酬等に関する方針と整合していることを確認しており、各方針に沿うものであると判断しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	73	73	-	-	1	3
監査役 (社外監査役を除く)	12	12	-	-	-	2
社外役員	25	25	-	-	-	5

- (注) 1. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので記載を省略しております。
2. 当社は、2007年6月21日開催の第42回定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金、役員賞与を廃止しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動や株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資を純投資目的である投資株式とし、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、政策保有株式の縮減に努める方針ですが、取引先等との事業上の関係維持・強化を図ることにより、当社の中長期的な企業価値向上に資すると判断される場合に、当該取引先等の株式等を取得・保有することがあります。

保有する株式については、毎年1回取締役会において、取引状況に基づき、当社の企業価値向上につながる関係が継続しているか、保有に伴うリターン（取引から得られる利益及び受取配当金）が当社の資本コストを上回る水準にあるか、また、株価下落等の保有リスクがないか等の観点から、銘柄ごとに保有の適否に関する検証を行っております。

検証の結果、保有の合理性が希薄化したと判断される銘柄については売却の検討を行います。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	5	40
非上場株式以外の株式	20	626

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	4	4	取引先持株会を通じた取得及び株式累積投資による取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	0

c. 特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
ユニ・チャーム(株)	53,700	53,475	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注) (株式数の増加)株式累積投資による取得	無
	234	248		
日東工業(株)	54,400	52,844	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注) (株式数の増加)取引先持株会を通じた取得	無
	85	107		
文化シャッター(株)	55,500	55,500	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	54	58		
スズキ(株)	10,000	10,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	42	50		
(株)ヤマタネ	22,500	22,500	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	有
	38	34		
(株)サンエー化研	59,000	59,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	有
	31	32		
ニチアス(株)	10,500	10,563	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	26	29		
(株)日新	13,300	13,014	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注) (株式数の増加)取引先持株会を通じた取得	無
	21	18		
積水化学工業(株)	10,000	10,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	17	21		
ホクト(株)	9,000	9,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	17	18		
東部ネットワーク(株)	15,000	15,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	有
	13	14		
ケイヒン(株)	6,700	6,699	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注) (株式数の増加)取引先持株会を通じた取得	無
	9	9		
(株)静岡銀行	10,000	10,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	有
	8	8		
(株)ハマキョウレックス	2,000	2,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	5	6		
ヤマハ発動機(株)	2,000	2,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	5	5		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
凸版印刷(株)	2,500	2,500	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	5	4		
協立電機(株)	1,560	1,560	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	有
	3	3		
東レ(株)	4,000	4,000	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	2	2		
大日精化工業(株)	800	800	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	1	1		
三井化学(株)	522	522	(保有目的)取引関係の維持・拡大のため (定量的な保有効果)(注)	無
	1	1		

(注) 上記 a. に記載している保有の合理性を検証する方法に基づき、保有効果の確認を行っております。なお、定量的な保有効果については当該株式の発行者との取引上の関係性を考慮し記載しておりません。

保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の連結財務諸表及び第57期事業年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の財務諸表について有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入や監査法人等の行う研修への参加により、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 5,082	1 4,808
受取手形及び営業未収入金	4,888	3 5,984
電子記録債権	156	189
販売用不動産	20	20
貯蔵品	22	21
その他	245	264
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	10,416	11,288
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,089	14,550
減価償却累計額	9,576	9,994
建物及び構築物(純額)	1, 2 4,513	1, 2 4,555
機械装置及び運搬具	2,080	2,103
減価償却累計額	1,904	1,838
機械装置及び運搬具(純額)	176	2 265
土地	1 11,404	1 11,596
リース資産	410	410
減価償却累計額	177	213
リース資産(純額)	233	196
建設仮勘定	52	705
その他	633	683
減価償却累計額	479	524
その他(純額)	154	158
有形固定資産合計	16,534	17,477
無形固定資産	343	395
投資その他の資産		
投資有価証券	758	695
繰延税金資産	251	279
その他	1,517	1,493
貸倒引当金	38	38
投資その他の資産合計	2,489	2,429
固定資産合計	19,367	20,302
資産合計	29,783	31,591

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	3,039	3,134
電子記録債務	190	327
短期借入金	1,310	1,314
未払法人税等	771	461
賞与引当金	241	268
その他	1,244	1,428
流動負債合計	6,798	6,935
固定負債		
長期借入金	5,101	5,103
リース債務	52	34
退職給付に係る負債	595	601
その他	315	308
固定負債合計	6,063	6,048
負債合計	12,862	12,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,284	1,284
資本剰余金	1,086	1,088
利益剰余金	14,329	16,061
自己株式	60	59
株主資本合計	16,640	18,374
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	285	237
退職給付に係る調整累計額	5	4
その他の包括利益累計額合計	280	232
純資産合計	16,921	18,607
負債純資産合計	29,783	31,591

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業収益	39,540	42,751
営業原価	35,515	38,553
営業総利益	4,024	4,198
販売費及び一般管理費	2,885	2,981
営業利益	3,138	3,216
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	14	18
補助金収入	30	36
受取保険金	0	14
保険解約返戻金	9	17
保険配当金	9	15
その他	19	23
営業外収益合計	83	126
営業外費用		
支払利息	35	31
その他	2	11
営業外費用合計	38	43
経常利益	3,184	3,299
特別利益		
固定資産売却益	515	59
投資有価証券売却益	-	0
負ののれん発生益	90	-
災害に伴う受取保険金	-	312
補助金収入	4114	456
特別利益合計	220	79
特別損失		
固定資産売却損	62	63
固定資産除却損	716	72
災害による損失	-	312
固定資産圧縮損	8108	856
減損損失	-	91
会員権評価損	2	-
会員権解約損	-	2
特別損失合計	129	78
税金等調整前当期純利益	3,276	3,300
法人税、住民税及び事業税	1,067	958
法人税等調整額	52	0
法人税等合計	1,015	957
当期純利益	2,261	2,342
親会社株主に帰属する当期純利益	2,261	2,342

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
当期純利益	2,261	2,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	101	47
退職給付に係る調整額	2	0
その他の包括利益合計	99	47
包括利益	2,360	2,294
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,360	2,294

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,284	1,086	12,478	60	14,789
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,284	1,086	12,478	60	14,789
当期変動額					
剰余金の配当			410		410
親会社株主に帰属する当期純利益			2,261		2,261
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,850	-	1,850
当期末残高	1,284	1,086	14,329	60	16,640

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	183	2	181	14,970
会計方針の変更による累積的影響額				-
会計方針の変更を反映した当期首残高	183	2	181	14,970
当期変動額				
剰余金の配当				410
親会社株主に帰属する当期純利益				2,261
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	101	2	99	99
当期変動額合計	101	2	99	1,950
当期末残高	285	5	280	16,921

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,284	1,086	14,329	60	16,640
会計方針の変更による累積的影響額			13		13
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,284	1,086	14,315	60	16,626
当期変動額					
剰余金の配当			596		596
親会社株主に帰属する当期純利益			2,342		2,342
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分				0	0
自己株式処分差益		1			1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	1	1,745	0	1,747
当期末残高	1,284	1,088	16,061	59	18,374

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	285	5	280	16,921
会計方針の変更による累積的影響額				13
会計方針の変更を反映した当期首残高	285	5	280	16,907
当期変動額				
剰余金の配当				596
親会社株主に帰属する当期純利益				2,342
自己株式の取得				0
自己株式の処分				0
自己株式処分差益				1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	47	0	47	47
当期変動額合計	47	0	47	1,700
当期末残高	237	4	232	18,607

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,276	3,300
減価償却費	615	738
減損損失	-	1
負ののれん発生益	90	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	16	0
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	24	6
受取利息及び受取配当金	14	18
支払利息	35	31
固定資産圧縮損	108	56
有形固定資産除却損	16	2
有形固定資産売却損益(は益)	13	6
災害に伴う受取保険金	-	12
災害による損失	-	12
補助金収入	114	56
売上債権の増減額(は増加)	303	1,129
棚卸資産の増減額(は増加)	4	1
仕入債務の増減額(は減少)	313	220
未払消費税等の増減額(は減少)	278	254
その他	79	52
小計	4,198	2,946
利息及び配当金の受取額	14	18
利息の支払額	35	31
法人税等の支払額	848	1,272
災害に伴う保険金の受取額	-	12
災害損失の支払額	0	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,328	1,672
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	495	1,272
有形固定資産の売却による収入	14	45
無形固定資産の取得による支出	102	129
定期預金の払戻による収入	165	-
投資有価証券の取得による支出	6	5
保険積立金の解約による収入	241	51
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	391	-
補助金の受取額	114	56
その他	15	23
投資活動によるキャッシュ・フロー	444	1,277
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	167	46
長期借入れによる収入	-	770
長期借入金の返済による支出	615	809
配当金の支払額	410	596
その他	92	79
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,285	669
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,598	274
現金及び現金同等物の期首残高	3,484	5,082
現金及び現金同等物の期末残高	5,082	4,808

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

主要な連結子会社の名称

株式会社藤友物流サービス

遠州トラック関西株式会社

小笠運送株式会社

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

ロ 棚卸資産

販売用不動産、仕掛販売用不動産

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法、その他の有形固定資産は定率法によっております。

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異の費用処理方法

各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

ハ 小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

また、当社の取締役非兼務の執行役員部分については、内規に基づく期末要支給額により計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社は、主たる事業として、輸送・倉庫を中心とした物流事業を展開しております。物流事業の主な役務の提供による収益は、貨物のトラック輸送、倉庫での保管・荷役などにより計上されるものです。

これらの取引のうち、輸送部門においては貨物の輸送の進捗とともに履行義務を充足すると判断し、履行義務の充足に伴って収益を認識しております。また、倉庫部門の保管業務においては契約期間にわたり均等に履行義務が充足されると判断し、契約期間にわたり均等に収益を認識しております。荷役業務においては作業が完了した時点で履行義務が充足されると判断し、作業完了時に収益を認識しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

退職給付に係る負債

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
退職給付に係る負債	595	601

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

退職給付に係る負債の算定において、確定給付制度における退職給付債務の測定に使用する割引率は従業員の平均残存勤務期間と同期間の国債の利回りを用いて算定しており、期末日におけるこの変動に伴う退職給付債務への影響に重要性があると判断した場合に見直すこととしております。割引率を見直した場合、翌連結会計年度の連結貸借対照表において、退職給付に係る負債の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

なお、当連結会計年度末の退職給付債務の測定に使用した割引率は0.7%（前連結会計年度0.7%）、退職給付債務の金額は601百万円（前連結会計年度595百万円）であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、輸送部門において、従来は貨物出荷日に収益を認識しておりましたが、履行義務の充足に伴って収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当連結会計年度の連結損益計算書に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は13百万円減少しております。

1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

これによる、連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載しておりません。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取保険金」は、「営業外収益」の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記することとしました。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた20百万円は、「受取保険金」0百万円、「その他」19百万円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について)

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大について、ワクチン接種が進行すること等により感染拡大が収束すると仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。この仮定による場合、翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響は軽微であると予想しております。

(連結貸借対照表関係)

- 1 担保に供している資産及び担保に係る債務は次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
現金及び預金	30百万円	30百万円
建物	1,007	210
土地	2,305	339
計	3,343	580

担保に係る債務

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
短期借入金	1,018百万円	67百万円
長期借入金	4,222	1,093
計	5,240	1,160
根抵当権の極度額	(3,500)	(818)

- 2 圧縮記帳額

補助金により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
建物及び構築物	108百万円	108百万円
機械装置及び運搬具	-	56
計	108	165

- 3 受取手形及び営業未収入金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (2022年3月31日)
受取手形	173百万円
営業未収入金	5,810

(連結損益計算書関係)

- 1 顧客との契約から生じる収益

営業収益については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
給料手当及び福利費	510百万円	523百万円
賞与引当金繰入額	24	23
退職給付費用	6	6
租税公課	96	100
貸倒引当金繰入額	16	0

3 災害に伴う受取保険金及び災害による損失

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

災害に伴う受取保険金及び災害による損失は、2021年10月1日に上陸した台風16号に伴う保険金の受取額及び倉庫修繕工事であります。

4 補助金収入

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

2019年9月に完成した浜松市北区の倉庫建設に伴う静岡県新規産業立地事業費補助金及び浜松市企業立地促進事業費補助金によるものであります。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

車輛動態管理システム導入に伴うA I・I o T等を活用した更なる輸送効率化推進事業費補助金によるものであります。

5 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
機械装置及び運搬具	15百万円	9百万円

6 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
機械装置及び運搬具	2百万円	3百万円
その他	-	0
計	2	3

7 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
建物及び構築物	16百万円	1百万円
機械装置及び運搬具	0	0
その他	0	0
計	16	2

8 固定資産圧縮損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
建物及び構築物	108百万円	- 百万円
機械装置及び運搬具	-	56
計	108	56

9 減損損失

当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類
静岡県袋井市	遊休資産	土地

当社グループは、物流事業については地域別に、また、不動産事業及び遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、地価の下落した遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額（1百万円）を特別損失に計上しました。その内訳は全額土地であります。

なお、遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は不動産鑑定評価額に基づき算定しております。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	145百万円	68百万円
組替調整額	-	0
税効果調整前	145	68
税効果額	43	21
その他有価証券評価差額金	101	47
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	5	3
組替調整額	1	3
税効果調整前	3	0
税効果額	1	0
退職給付に係る調整額	2	0
その他の包括利益合計	99	47

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,546,000	-	-	7,546,000
合計	7,546,000	-	-	7,546,000
自己株式				
普通株式	85,280	-	-	85,280
合計	85,280	-	-	85,280

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月12日 取締役会	普通株式	186	25.00	2020年3月31日	2020年5月29日
2020年11月6日 取締役会	普通株式	223	30.00	2020年9月30日	2020年12月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月13日 取締役会	普通株式	298	利益剰余金	40.00	2021年3月31日	2021年6月1日

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,546,000	-	-	7,546,000
合計	7,546,000	-	-	7,546,000
自己株式				
普通株式 (注) 1. 2.	85,280	91	954	84,417
合計	85,280	91	954	84,417

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加91株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少954株は、譲渡制限付株式としての自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月13日 取締役会	普通株式	298	40.00	2021年3月31日	2021年6月1日
2021年11月9日 取締役会	普通株式	298	40.00	2021年9月30日	2021年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月13日 取締役会	普通株式	298	利益剰余金	40.00	2022年3月31日	2022年6月1日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

「現金及び現金同等物」の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている「現金及び預金」の金額は一致しております。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(2021年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	1,652	1,096	555
機械装置及び運搬具	113	75	37
その他有形固定資産	12	8	4
合計	1,778	1,180	597

(単位：百万円)

	当連結会計年度(2022年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	1,652	1,179	472
機械装置及び運搬具	113	81	32
その他有形固定資産	12	8	3
合計	1,778	1,269	508

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が、有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い一部について支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	102	108
1年超	702	594
合計	805	702

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が、有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い一部について支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
支払リース料	144	144
減価償却費相当額	88	88
支払利息相当額	46	41

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

一部のリース物件について、リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料
(借手側)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
1年内	1,363	1,258
1年超	4,209	3,520
合計	5,573	4,779

(貸手側)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
1年内	216	162
1年超	162	-
合計	379	162

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び営業未収入金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行い、低減を図っております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式で、上場株式については毎月時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び営業未払金、電子記録債務は、1年以内の支払期日であります。

借入金の用途は運転資金(短期)と設備投資資金(長期)で、長期借入金については、主に固定金利での借入を行い、金利変動リスクの低減を図っております。

また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(4) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち34.1%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2021年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
投資有価証券(*2)	718	718	-
資産計	718	718	-
長期借入金	5,101	5,075	25
負債計	5,101	5,075	25

(*1) 現金並びに短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似する「現金及び預金」、「受取手形及び営業未収入金」、「電子記録債権」、「支払手形及び営業未払金」、「電子記録債務」「短期借入金」については記載を省略しております。

(*2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	前連結会計年度(百万円)
非上場株式	40

当連結会計年度（2022年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
投資有価証券(*2)	654	654	-
資産計	654	654	-
長期借入金	5,103	5,058	44
負債計	5,103	5,058	44

(*1) 現金並びに短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似する「現金及び預金」、「受取手形及び営業未収入金」、「電子記録債権」、「支払手形及び営業未払金」、「電子記録債務」「短期借入金」については記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(百万円)
非上場株式	40

(注) 1. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度(2021年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,082	-	-	-
受取手形及び営業未収入金	4,888	-	-	-
電子記録債権	156	-	-	-
合計	10,127	-	-	-

当連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	4,808	-	-	-
受取手形及び営業未収入金	5,984	-	-	-
電子記録債権	189	-	-	-
合計	10,982	-	-	-

(注) 2. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(2021年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	514	-	-	-	-	-
長期借入金	796	678	1,550	551	1,616	704
合計	1,310	678	1,550	551	1,616	704

当連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	560	-	-	-	-	-
長期借入金	754	1,627	628	1,693	368	785
合計	1,314	1,627	628	1,693	368	785

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他の有価証券				
株式	654	-	-	654
資産計	654	-	-	654

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	5,058	-	5,058
負債計	-	5,058	-	5,058

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2021年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	705	296	408
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	705	296	408
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	13	13	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	13	13	0
合計		718	310	407

当連結会計年度（2022年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	646	306	339
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	646	306	339
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	8	8	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	8	8	0
合計		654	315	339

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	0	0	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	0	0	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、確定給付型の制度として退職一時金制度、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の算定にあたり、簡便法を採用しております。また、当社において執行役員制度を導入しており、取締役非兼務の執行役員部分については内規に基づく期末支給額により計上しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
退職給付債務の期首残高	427百万円	454百万円
勤務費用	40	45
利息費用	2	3
数理計算上の差異の発生額	5	3
退職給付の支払額	22	29
退職給付債務の期末残高	454	476

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	84百万円	141百万円
新規連結子会社の取得に伴う増加	55	-
退職給付費用	16	2
退職給付の支払額	14	18
退職給付に係る負債の期末残高	141	125

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	- 百万円	- 百万円
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	595	601
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	595	601
退職給付に係る負債	595	601
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	595	601

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
勤務費用	40百万円	45百万円
利息費用	2	3
数理計算上の差異の費用処理額	1	3
簡便法で計算した退職給付費用	16	2
確定給付制度に係る退職給付費用	61	54

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
数理計算上の差異	3百万円	0百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
未認識数理計算上の差異	7百万円	7百万円

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
割引率	0.7%	0.7%

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度42百万円、当連結会計年度45百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	182百万円	183百万円
賞与引当金	73	82
減損損失	371	369
減価償却超過額	22	27
会員権評価損	6	6
未払事業税	50	34
投資有価証券評価損	2	2
貸倒引当金	11	11
その他	60	59
繰延税金資産小計	781	778
評価性引当額	395	396
繰延税金資産合計	386	381
繰延税金負債		
特別償却準備金	10	-
その他有価証券評価差額金	121	100
その他	2	1
繰延税金負債合計	134	102
繰延税金資産の純額	251	279

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
法定実効税率	29.8%	29.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.2
法人住民税均等割	0.8	0.9
繰延税金資産に係る評価性引当額	0.1	0.0
税額控除	-	2.6
その他	0.3	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.0	29.0

(資産除去債務関係)

当社グループは、不動産賃借契約に基づき、契約終了時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、債務の履行時期を予測することが難しく、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、静岡県その他の地域において、賃貸倉庫等(土地を含む。)を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は366百万円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業費用に計上)であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は399百万円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	6,150	6,846
期中増減額	696	55
期末残高	6,846	6,790
期末時価	5,754	5,641

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は自社使用からの用途変更(541百万円)、小笠運送株式会社の新規連結(233百万円)、賃貸用倉庫の改修(26百万円)であり、主な減少額は減価償却費(105百万円)であります。
- 当連結会計年度の主な増加額は賃貸用倉庫の改修(30百万円)、賃貸用倉庫用地の取得(26百万円)であり、主な減少額は減価償却費(111百万円)であります。
3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定書に基づく金額、その他の物件については一定の評価額や市場価格を反映していると考えられる指標を用いて調整した金額及び一部の建物等の償却性資産については、適正な帳簿価額によっております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは輸送・倉庫を中心とした「物流事業」のほか「不動産事業等」を展開しサービスを提供しております。顧客との契約から生じる収益を分解した情報は次のとおりであります。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	物流事業		
運送収入	32,362	-	32,362
倉庫収入	8,809	-	8,809
その他	-	52	52
顧客との契約から生じる収益	41,172	52	41,224
その他の収益	1,433	93	1,526
外部顧客への営業収益	42,605	145	42,751

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結財務諸表「注記事項」(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4.会計方針に関する事項(5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

なお、取引の対価は履行義務を充足してから6ヶ月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位:百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	5,000
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	6,174
契約資産(期首残高)	-
契約資産(期末残高)	-
契約負債(期首残高)	-
契約負債(期末残高)	-

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度末現在、当初の予想期間が1年を超える重要な取引はないため、実務上の便宜を適用し、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社では、輸送・倉庫を中心とした「物流事業」のほか「不動産事業等」を展開しサービスを提供しております。また、実際のサービスは、各営業所・子会社を通じて提供しておりますが、同一のサービスを提供する営業所・子会社の経済的特徴は概ね類似しております。したがって、当社は各営業所・子会社を集約して、「物流事業」を報告セグメントとしております。

「物流事業」は、一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業及び倉庫事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの営業収益、利益、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度に係る連結財務諸表から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

なお、当該変更による影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの営業収益、利益、資産、その他の項目の金額に関する情報
 前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	物流事業				
営業収益					
外部顧客への営業収益	39,352	187	39,540	-	39,540
セグメント間の内部営業収益又は振替高	-	-	-	-	-
計	39,352	187	39,540	-	39,540
セグメント利益	3,801	79	3,881	742	3,138
セグメント資産	22,114	2,344	24,458	5,325	29,783
その他の項目					
減価償却費	575	15	590	24	615
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	519	0	520	33	553

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 742百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 742百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額5,325百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。なお、全社資産は、主に提出会社における現金、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額24百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額33百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産への設備投資額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	物流事業				
営業収益					
外部顧客への営業収益	42,605	145	42,751	-	42,751
セグメント間の内部営業収益又は振替高	-	-	-	-	-
計	42,605	145	42,751	-	42,751
セグメント利益	3,956	76	4,033	816	3,216
セグメント資産	24,101	2,329	26,430	5,160	31,591
その他の項目					
減価償却費	682	15	697	41	738
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,425	0	1,425	406	1,832

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 816百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 816百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額5,160百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。なお、全社資産は、主に提出会社における現金、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額41百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額406百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産への設備投資額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客への営業収益がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アマゾンジャパン合同会社	13,597	物流事業

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客への営業収益がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
アマゾンジャパン合同会社	13,508	物流事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	物流事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	0	1	1

（注）「全社・消去」の金額は、セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

当連結会計年度の「物流事業」において、小笠運送株式会社の株式取得による連結子会社化にともない、負ののれんが発生しております。これにともない、当連結会計年度において負ののれん発生益90百万円を特別利益として計上しております。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	㈱住友倉庫	大阪市 北区	14,922	倉庫業	(被所有) 直接 60.7	倉庫の賃借	支払リース料 (注)	165	その他流動 資産	15
							未経過リース 料期末残高相 当額	798	-	-
							支払利息相当 額	48	-	-

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	㈱住友倉庫	大阪市 北区	14,922	倉庫業	(被所有) 直接 60.7	倉庫の賃借	支払リース料 (注)	165	その他流動 資産	15
							未経過リース 料期末残高相 当額	697	-	-
							支払利息相当 額	43	-	-

(注) 他社より入手した見積りと比較の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社住友倉庫（東京証券取引所に上場）

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり純資産額	2,268.02円	2,493.77円
1株当たり当期純利益	303.10円	313.95円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,261	2,342
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,261	2,342
期中平均株式数(株)	7,460,720	7,461,340

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	514	560	0.40	-
1年以内に返済予定の長期借入金	796	754	0.44	-
1年以内に返済予定のリース債務	60	11	6.21	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,101	5,103	0.44	2023年～2032年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	52	34	6.21	2024年～2027年
その他有利子負債				
未払金	17	-	-	-
長期未払金	-	-	-	-
合計	6,541	6,464	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,627	628	1,693	368
リース債務	12	11	6	3

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
営業収益 (百万円)	10,259	20,605	31,976	42,751
税金等調整前四半期 (当期) 純利益 (百万円)	843	1,605	2,509	3,300
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	572	1,101	1,728	2,342
1 株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	76.70	147.70	231.60	313.95

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益 (円)	76.70	71.00	83.90	82.35

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,237	2,733
受取手形	197	173
電子記録債権	114	138
営業未収入金	2 4,170	2 5,250
リース投資資産	3	-
販売用不動産	20	20
貯蔵品	19	16
前払費用	2 206	2 218
その他	2 19	2 22
流動資産合計	7,990	8,573
固定資産		
有形固定資産		
建物	1, 3 3,713	1, 3 3,785
構築物	382	383
機械及び装置	26	35
車両運搬具	63	3 175
工具、器具及び備品	141	147
土地	1 11,093	1 11,238
リース資産	182	157
建設仮勘定	52	705
有形固定資産合計	15,655	16,630
無形固定資産		
借地権	114	114
電話加入権	23	23
ソフトウェア	171	207
ソフトウェア仮勘定	8	2
施設利用権	0	0
無形固定資産合計	317	348
投資その他の資産		
投資有価証券	718	666
関係会社株式	662	662
出資金	4	4
繰延税金資産	179	213
リース投資資産	5	-
敷金及び保証金	1,062	1,069
保険積立金	224	233
その他	117	111
貸倒引当金	38	38
投資その他の資産合計	2,936	2,923
固定資産合計	18,909	19,901
資産合計	26,900	28,475

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	52	19
電子記録債務	190	327
営業未払金	2,700	2,772
短期借入金	1,514	560
1年内返済予定の長期借入金	1,765	1,729
リース債務	48	-
未払金	90	81
未払費用	315	344
未払法人税等	626	406
未払消費税等	432	188
預り金	34	34
賞与引当金	189	207
設備関係支払手形	9	-
設備関係電子記録債務	45	508
その他	295	296
流動負債合計	6,113	6,278
固定負債		
長期借入金	1,25,202	1,25,230
リース債務	5	-
長期末払金	33	33
退職給付引当金	457	483
長期預り保証金	207	204
固定負債合計	5,907	5,951
負債合計	12,020	12,229
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,284	1,284
資本剰余金		
資本準備金	1,070	1,070
その他資本剰余金	15	17
資本剰余金合計	1,086	1,088
利益剰余金		
利益準備金	90	90
その他利益剰余金		
特別償却準備金	24	-
別途積立金	6,298	6,298
繰越利益剰余金	5,880	7,307
利益剰余金合計	12,293	13,697
自己株式	60	59
株主資本合計	14,604	16,010
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	274	235
評価・換算差額等合計	274	235
純資産合計	14,879	16,245
負債純資産合計	26,900	28,475

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業収益		
運送収入	27,033	28,339
倉庫収入	8,396	9,244
不動産収入	196	154
その他	37	37
営業収益合計	1 35,663	1 37,775
営業原価	1 32,227	1 34,202
営業総利益	3,436	3,573
販売費及び一般管理費	1, 2 742	1, 2 816
営業利益	2,694	2,756
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	13	16
補助金収入	28	35
受取保険金	0	7
保険解約返戻金	7	-
保険配当金	9	15
その他	15	18
営業外収益合計	1 74	1 94
営業外費用		
支払利息	34	28
その他	2	11
営業外費用合計	1 36	1 40
経常利益	2,732	2,811
特別利益		
固定資産売却益	11	3
投資有価証券売却益	-	0
災害に伴う受取保険金	-	12
補助金収入	114	56
特別利益合計	125	72
特別損失		
固定資産売却損	2	3
固定資産除却損	16	2
災害による損失	-	12
固定資産圧縮損	108	56
減損損失	-	3 1
会員権評価損	1	-
特別損失合計	128	76
税引前当期純利益	2,730	2,807
法人税、住民税及び事業税	881	805
法人税等調整額	30	11
法人税等合計	851	793
当期純利益	1,879	2,014

【営業原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
不動産原価					
不動産原価		41		-	
不動産原価合計		41	0.1	-	-
人件費					
1.賃金給料		4,287		4,811	
2.賞与		250		284	
3.賞与引当金繰入額		167		186	
4.退職給付費用		84		91	
5.福利厚生費		783		857	
人件費合計		5,573	17.3	6,232	18.2
経費					
1.備車料		18,072		18,618	
2.外注費		2,351		2,664	
3.燃料油脂費		660		898	
4.車両修繕費		236		242	
5.道路使用料		528		554	
6.光熱費及び消耗品費		377		406	
7.地代家賃		2,093		2,073	
8.賃借料		829		901	
9.租税公課		173		173	
10.保険料		123		133	
11.旅費交通費		14		14	
12.減価償却費		494		575	
13.その他		657		713	
経費合計		26,611	82.6	27,969	81.8
営業原価		32,227	100.0	34,202	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
						特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,284	1,070	15	1,086	90	48	6,298	4,387	10,824	60	13,135
会計方針の変更による累積的影響額											-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,284	1,070	15	1,086	90	48	6,298	4,387	10,824	60	13,135
当期変動額											
剰余金の配当								410	410		410
当期純利益								1,879	1,879		1,879
特別償却準備金の取崩						24		24	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計	-	-	-	-	-	24	-	1,493	1,469	-	1,469
当期末残高	1,284	1,070	15	1,086	90	24	6,298	5,880	12,293	60	14,604

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	181	181	13,317
会計方針の変更による累積的影響額			-
会計方針の変更を反映した当期首残高	181	181	13,317
当期変動額			
剰余金の配当			410
当期純利益			1,879
特別償却準備金の取崩			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	93	93	93
当期変動額合計	93	93	1,562
当期末残高	274	274	14,879

当事業年度（自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
						特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,284	1,070	15	1,086	90	24	6,298	5,880	12,293	60	14,604
会計方針の変更による累積的影響額								13	13		13
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,284	1,070	15	1,086	90	24	6,298	5,866	12,279	60	14,590
当期変動額											
剰余金の配当								596	596		596
当期純利益								2,014	2,014		2,014
特別償却準備金の取崩						24		24	-		-
自己株式の取得										0	0
自己株式の処分										0	0
自己株式処分差益			1	1							1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計	-	-	1	1	-	24	-	1,441	1,417	0	1,419
当期末残高	1,284	1,070	17	1,088	90	-	6,298	7,307	13,697	59	16,010

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	274	274	14,879
会計方針の変更による累積的影響額			13
会計方針の変更を反映した当期首残高	274	274	14,865
当期変動額			
剰余金の配当			596
当期純利益			2,014
特別償却準備金の取崩			-
自己株式の取得			0
自己株式の処分			0
自己株式処分差益			1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	39	39	39
当期変動額合計	39	39	1,380
当期末残高	235	235	16,245

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

販売用不動産、仕掛販売用不動産

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法、その他の有形固定資産については定率法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なおソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員及び取締役非兼務の執行役員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額(執行役員部分については、内規に基づく当事業年度末要支給額)に基づき計上しております。

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異の費用処理方法

各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、主たる事業として、輸送・倉庫を中心とした物流事業を展開しております。物流事業の主な役務の提供による収益は、貨物のトラック輸送、倉庫での保管・荷役などにより計上されるものです。

これらの取引のうち、輸送部門においては貨物の輸送の進捗とともに履行義務を充足すると判断し、履行義務の充足に伴って収益を認識しております。また、倉庫部門の保管業務においては契約期間にわたり均等に履行義務が充足されると判断し、契約期間にわたり均等に収益を認識しております。荷役業務においては作業が完了した時点で履行義務が充足されると判断し、作業完了時に収益を認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(重要な会計上の見積り)

退職給付引当金

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
退職給付引当金	457	483

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

退職給付引当金の算定において、退職給付債務の測定に使用する割引率は従業員の平均残存勤務期間と同期間の国債の利回りを用いて算定しており、期末日におけるこの変動に伴う退職給付債務への影響に重要性があると判断した場合に見直すこととしております。割引率を見直した場合、翌事業年度において、退職給付引当金の金額に重要な影響を及ぼす可能性があります。

なお、当事業年度末の退職給付債務の測定に使用した割引率は0.7%（前事業年度0.7%）、退職給付債務の金額は490百万円（前事業年度465百万円）であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、輸送部門において、従来は貨物出荷日に収益を認識しておりましたが、履行義務の充足に伴って収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当事業年度の損益計算書に与える影響は軽微であります。なお、利益剰余金の当期首残高は13百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

これによる、財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度まで営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より、区分掲記しております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた15百万円は、「受取保険金」0百万円、「その他」15百万円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について)

当社では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大について、ワクチン接種が進行すること等により感染拡大が収束すると仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。この仮定による場合、翌事業年度の財務諸表に与える影響は軽微であると予想しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
建物	866百万円	210百万円
土地	2,209	339
計	3,076	550

担保に係る債務

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
短期借入金	314百万円	- 百万円
1年内返済予定の長期借入金	685	67
長期借入金	4,184	1,093
計	5,184	1,160
根抵当権の極度額	(3,080)	(818)

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

区分掲記した以外で各科目に含まれているものは次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
短期金銭債権	32百万円	37百万円
短期金銭債務	234	260
長期金銭債務	198	198

3 圧縮記帳額

補助金により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
建物	108百万円	108百万円
車輛運搬具	-	56
計	108	165

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に関するものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	277百万円	212百万円
営業費用	2,436	2,524
営業取引以外の取引による取引高	2	2

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。なお、金額は全て一般管理費に属するものであります。

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
給料手当及び福利費	414百万円	403百万円
賞与引当金繰入額	22	20
退職給付費用	6	8
租税公課	95	99
減価償却費	24	41
貸倒引当金繰入額	16	-

3 減損損失

当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類
静岡県袋井市	遊休資産	土地

当社は、物流事業については地域別に、また、不動産事業及び遊休資産については個別物件ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、地価の下落した遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額(1百万円)を特別損失に計上しました。その内訳は全額土地であります。

なお、遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、その評価額は不動産鑑定評価額に基づき算定しております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2021年3月31日)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (百万円)
子会社株式	662
関連会社株式	-

当事業年度(2022年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	662
関連会社株式	-

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2021年 3月31日)	当事業年度 (2022年 3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	136百万円	144百万円
賞与引当金	56	61
減損損失	371	369
減価償却超過額	22	27
会員権評価損	4	4
未払事業税	37	29
投資有価証券評価損	1	1
貸倒引当金	11	11
その他	33	32
繰延税金資産小計	675	683
評価性引当額	369	370
繰延税金資産合計	305	313
繰延税金負債		
特別償却準備金	10	-
その他有価証券評価差額金	116	99
繰延税金負債合計	126	99
繰延税金資産の純額	179	213

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2021年 3月31日)	当事業年度 (2022年 3月31日)
法定実効税率 (調整)	29.8%	29.8%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.2
法人住民税均等割	1.0	1.0
繰延税金資産に係る評価性引当額	0.1	0.0
税額控除	-	2.8
その他	0.3	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.2	28.2

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区 分	資産の 種類	当期首 残高	当 期 増加額	当 期 減少額	当 期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形固 定資産	建物	3,713	404	0	332	3,785	7,781
	構築物	382	52	-	50	383	1,138
	機械及び装置	26	15	-	6	35	54
	車両運搬具	63	262	61 [56]	88	175	788
	工具、器具及び備品	141	59	0	52	147	462
	土地	11,093	180	34 (1)	-	11,238	-
	リース資産	182	-	-	24	157	180
	建設仮勘定	52	1,043	390	-	705	-
	計	15,655	2,018	488 [56] (1)	555	16,630	10,405
無形固 定資産	借地権	114	-	-	-	114	-
	電話加入権	23	-	-	-	23	-
	ソフトウェア	171	96	-	60	207	1,346
	ソフトウェア仮勘定	8	60	66	-	2	-
	施設利用権	0	-	-	0	0	4
	計	317	157	66	60	348	1,351

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建設仮勘定	本社建物	342百万円
建設仮勘定	倉庫建物	292百万円
車両運搬具	ネットワーク型デジタルタコグラフ464台	152百万円

2. 当期減少額のうち [] は内書きで、取得価額から控除している圧縮記帳額であります。

3. 当期減少額のうち () は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	38	-	-	38
賞与引当金	189	207	189	207

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで																																															
定時株主総会	6月中																																															
基準日	3月31日																																															
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めた日																																															
1単元の株式数	100株																																															
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 買取手数料	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 無料																																															
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL https://www.enshu-truck.co.jp/																																															
株主に対する特典	<p>株主優待制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年3月31日現在当社株式を500株以上ご所有の株主の皆様に対し、優待品を贈呈いたしております。下記の基準により、いずれかおひとつの優待品をお選びいただけます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ご所有株式数</th> <th>選択区分</th> <th>ご優待品</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">500株以上 1,000株未満</td> <td></td> <td>クオカード(2,000円分)</td> <td>1枚</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クオカード(4,000円分)</td> <td>1枚</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1,000株以上 2,000株未満</td> <td></td> <td>静岡産煎茶</td> <td>2缶</td> </tr> <tr> <td></td> <td>郷土の産品「クラウンマスクメロン」</td> <td>2個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クオカード(6,000円分)</td> <td>1枚</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2,000株以上 5,000株未満</td> <td></td> <td>静岡産上煎茶</td> <td>2缶</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「ふくろい遠州の花火」指定席入場券</td> <td>2枚</td> </tr> <tr> <td></td> <td>郷土の産品「クラウンマスクメロン」</td> <td>3個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クオカード(10,000円分)</td> <td>1枚</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">5,000株以上</td> <td></td> <td>静岡産特上煎茶</td> <td>2缶</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「ふくろい遠州の花火」指定席入場券</td> <td>4枚</td> </tr> <tr> <td></td> <td>郷土の産品「クラウンマスクメロン」</td> <td>4個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>クオカード(10,000円分)</td> <td>1枚</td> </tr> </tbody> </table> <p>毎年6月に株主様のご希望をおたずねします。 「ふくろい遠州の花火」指定席入場券は開催日までにご送付いたします。 他のご優待品については順次現品をご送付いたします。 2,000株以上ご所有の株主様が「ふくろい遠州の花火」指定席入場券をお選びいただいた場合は、中止に備えて他の優待品をあらかじめご指定いただけます。 ご指定がない場合はクオカードとさせていただきます。</p>	ご所有株式数	選択区分	ご優待品	数量	500株以上 1,000株未満		クオカード(2,000円分)	1枚		クオカード(4,000円分)	1枚	1,000株以上 2,000株未満		静岡産煎茶	2缶		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	2個		クオカード(6,000円分)	1枚	2,000株以上 5,000株未満		静岡産上煎茶	2缶		「ふくろい遠州の花火」指定席入場券	2枚		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	3個		クオカード(10,000円分)	1枚	5,000株以上		静岡産特上煎茶	2缶		「ふくろい遠州の花火」指定席入場券	4枚		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	4個		クオカード(10,000円分)	1枚
ご所有株式数	選択区分	ご優待品	数量																																													
500株以上 1,000株未満		クオカード(2,000円分)	1枚																																													
		クオカード(4,000円分)	1枚																																													
1,000株以上 2,000株未満		静岡産煎茶	2缶																																													
		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	2個																																													
		クオカード(6,000円分)	1枚																																													
2,000株以上 5,000株未満		静岡産上煎茶	2缶																																													
		「ふくろい遠州の花火」指定席入場券	2枚																																													
		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	3個																																													
		クオカード(10,000円分)	1枚																																													
5,000株以上		静岡産特上煎茶	2缶																																													
		「ふくろい遠州の花火」指定席入場券	4枚																																													
		郷土の産品「クラウンマスクメロン」	4個																																													
		クオカード(10,000円分)	1枚																																													

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第56期）（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）2021年6月23日東海財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2021年6月23日東海財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第57期第1四半期）（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）2021年8月10日東海財務局長に提出

（第57期第2四半期）（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）2021年11月11日東海財務局長に提出

（第57期第3四半期）（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）2022年2月9日東海財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2021年6月28日東海財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2022年 6月23日

遠州トラック株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 康仁

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 溝 静太

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている遠州トラック株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、遠州トラック株式会社及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

遠州トラック株式会社の運送収入の期間帰属の適切性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>遠州トラック株式会社の連結損益計算書に計上されている営業収益42,751百万円には、遠州トラック株式会社で計上されている運送収入28,339百万円が含まれており、連結営業収益の66.3%を占めている。</p> <p>連結財務諸表注記「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4.会計方針に関する事項(5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおり、運送収入については、貨物の輸送の進捗とともに履行義務を充足すると判断し、履行義務の充足に伴って収益が認識される。</p> <p>貨物の運送は、取引量が大きく、複数の倉庫等から出荷され複数の所在地へ行われる。また、輸送の事実の把握及び確認は各営業所又は本社事業部の事務処理に依拠している。そのため、運送収入については、輸送の事実に関する誤認が生じ、不適切な会計期間に収入が計上されるという潜在的なリスクが存在する。</p> <p>以上から、当監査法人は、遠州トラック株式会社の運送収入の期間帰属の適切性の検討が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、遠州トラック株式会社の運送収入の期間帰属の適切性を検討するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <p>遠州トラック株式会社の運送収入の計上プロセスに関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。評価に当たっては、特に以下に焦点を当てた。</p> <p>各営業所又は本社事業部の事務担当者が、出荷日付が記録された配車簿を確認のうえ入力した、運賃日報等の出荷日付が適切であることを営業所の所長等が承認する統制</p> <p>期末日以前に出荷され期末日後に輸送完了予定の収入計上取引の取消しについて、経理責任者が、仕訳の計上金額が適切であることを確認し、承認する統制</p> <p>(2) 適切な会計期間に運送収入が計上されているか否かの検討</p> <p>遠州トラック株式会社の運送収入が適切な会計期間に認識されているか否かを検討するため、期末月における運送収入の増加状況等を踏まえて、例外取引に該当する可能性があるとして抽出した取引について、以下を含む監査手続を実施した。</p> <p>輸送先から入手した受領書に記載の日付が、収入計上した会計期間と整合しているか否かを検討した。</p> <p>また、期末日後における運送収入のマイナス計上取引について、マイナス計上理由を検討した。</p>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、遠州トラック株式会社の2022年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、遠州トラック株式会社が2022年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年6月23日

遠州トラック株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 康仁

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 溝 静太

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている遠州トラック株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、遠州トラック株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

(運送収入の期間帰属の適切性)

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「運送収入の期間帰属の適切性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「遠州トラック株式会社の運送収入の期間帰属の適切性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。